

第3学年 社会科学習指導案

単元名「くらしをまもる」

～朝日町の消防団の活躍～（全9時間）

1 単元について

消防署は、災害が起きたときにいち早く駆けつけ、関係諸機関と連絡を取り合いながら協力して活動し、災害から我々の安全を守る工夫や努力をしている。その消防署では、万が一に備え、毎日訓練や設備の点検を行っている。それらのことは、地域社会での安全な生活を保障するものであり、地域住民の強い願いに基づくものである。

本単元では、実際に消防署見学を行い、そこで様々な訓練や点検を毎日行っていることを知り、災害を防ぐための設備を見たり、また消防署の方の願いや思いをインタビューしたりすることで、私たちの安全がしっかりと守られていることをつかませたい。

この学習を通していく中で、実は消防署の人以外にも、この朝日町で普段は別の仕事に従事している人たちが消防団を組織して、消防署と連携しながら初期消火や防火活動などを行っていることを知り、消防団の人たちは、自分たちの地域の安全は自分たちで守っていくという強い願いをもって活動していることをとらえさせたい。

私たちの安全は、多くの関係諸機関の連携やそこに従事する人々の工夫や努力で守られていることをつかませるため設定した。

2 単元の目標

- (1) 火事から我々の安全を守る工夫や、施設・設備に関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究する。

(関心・意欲・態度)

- (2) 火事から我々の安全を守るための関係諸機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考え、適切に判断する。

(思考・判断)

- (3) 消防署の見学やインタビューにより分かったこと、資料からつかんだことなどを工夫して分かりやすくまとめ、表現できる。

(観察・資料活用の技能・表現)

- (4) 消防署や消防団の役割、しくみを理解するとともに、消防署を中心に関係諸機関が互

いに連絡を取り合い、緊急に対処する体制があること、またそこに従事する人々の努力によって我々の安全が守られていることを理解できる。
(知識・理解)

3 研究と関わって

(1) 指導計画、単元構成の工夫

①ねらいにせまる人物の教材開発

消防団の活動について、高山市消防団朝日支団に所属している地域の方を取り上げる。身近な人物を教材化することで、社会的事象の意味を、より興味をもって具体的にとらえることができると考えられる。

また、自分たちが知っている身近な人が消防団員として、自分たちの地域は自分たちで守ろうという、強い願いや思いをもって活動していることをつかませることで、より地域を愛する子が育つと考えられる。

②社会的事象の意味をとらえる指導計画の作成・単元構成の工夫

災害が起きたとき、消防署を中心とした関係諸機関が連携をして、私たちの安全を守ってくれているということを最初につかませる。そして、実際に消防署見学を行い、不測の事態に対し、早急な対応ができるように毎日訓練をしたり、設備の点検を行ったりしていることをとらえさせる。また、消防署の方にインタビューをして、そこに従事している人々の工夫や努力をとらえさせる。それらのことは全て私たちの安全を守るためであるということをつかませたい。

消防署以外にも、朝日町には消防団という組織があり、この消防団もまた私たちの安全を守るために活動していることをつかませ、実は多くの諸機関によって私たちの安全がしっかりと守られていることを、子どもたちの意識の流れに沿って単元構成を図っていく。

(2) 学習活動の工夫

①ねらいを明確にした学習活動の工夫

前時までに、毎日専門的な訓練や設備の点検をしている消防署の活動について学習をし、私たちの安全はしっかりと守られて

いることをとらえさせておく。けれども不測の事態に対して早急に対処できる消防署があるにもかかわらず、私たちの地域には消防署員ではない、身近な人たちが消防団を組織し、そして活動しているという事実を提示する。そのことで、子ども達から朝日町に消防団があるのはどうしてだろう、という課題が生み出せるようにする。

そして個人や集団追究の場で、自分たちの地域は自分たちで守るという強い願いに基づくものであるという、本時のねらいに迫るため、資料や問い返しで考えを深めさせるようにする。発言の場では課題に立ち戻って発言させることで、ねらいの焦点化を図るようにする。また自分たちが追究したことを、消防団員の話聞くことで検証する。

最後に、学習をして分かったことを書くことで、自己の変容に気付き、ねらいに即したまとめができるようにする。

②仲間と練り合う交流活動の工夫

自分の考えをもたせるための資料を、4種類(写真、グラフ、表、文章資料)準備をし、それぞれについてどう考えられるのかを根拠をはっきりとさせ、具体的に記述させる。

具体的には、資料1の『操法訓練の様子』の写真資料からは、消火訓練をすることで、多くの人で手際よく火事を消すことができるということ、資料2の『現場到着までの所要時間の比較』のグラフからは、消防署よりも早く来れることで、早く消火活動ができるということ、資料3の『消防団の年間の活動』の表からは、消火活動以外の仕事が年間を通して多くあるということ、最後に資料4の『消防団員の話』では、決まった活動以外にも、必要に応じて活動していることを、それぞれ考えることができる。そのことを、【火事を早く消す活動】【火事を防ぐ活動】【人を助けたり、町を守ったりする活動】としてまとめる。そしてこの3つをまとめる段階で「誰のためにこんな活動をしているのか」という問い返しの発問をする。そこで再度子どもたちは考え直し、本時のねらいとする、それらの活動は全て、自分たちの地域は自分たちで守るという強い願いであり、そして、わた

したちの安全を守るためであるということに気付くのではないかと考える。

最後に、消防団員の話聞くことで、自分たちが考えたことを検証する。その話から自分たちが考えたことがしっかりと裏付けされ、また、わたしたちの安全は、消防団の人たちにも守られているということに気付くのではないかと考える。

(3) 指導・援助、評価の工夫

①調べ考える指導・援助の工夫

自分の考えを見いだせない児童には、仲間同士で資料を見たり、教師と一緒に資料を詳しく見たりするようにする。

具体的に資料1では、消火訓練をすることでどのような効果があるのかを考えさせる。資料2では、消防署と消防団の現場到着までの時間を比較させ、1分1秒でも早く消火活動ができ、それは大きな火事にならないようにするという考えさせる。資料3では、夜回りや点検、消火栓の周りの雪かきは、何のためにしているのかを考えさせ、それは火事を防ぐという活動であることを気付かせる。資料4では、仕事を表す言葉に着目させ、消防活動以外にも必要に応じて活動をしていることに気付かせる。それらの活動は、わたしたちの安全を守るためであり、地域のために活動していることに気付かせたい。

②学びを確かにする相互、自己評価の工夫

課題を提示した後に自分の考えを書かせる。そして授業の最後に学習のまとめを書かせる。この2つを比較することで、自己の考えの高まりや変容を認識させる。そして、ノートに教師が認め励まし等の朱書きをすることで、評価を行う。また、自己評価カードを用いて、授業全体としての取り組みについても自己評価をさせる。

授業の終わりには教科係の本時の振り返りを位置付けている。、本時のよかったところやがんばったところを発表することで、学級全体としての相互評価を行い、次の授業へつなげていく。